

# 男子バレーボール部H29総体レポート

日時：6月3日（土）～6月5日（月）

場所：田辺工業高校

予選トーナメント

VS 近大和歌山付属高等学校 セットカウント1-2 負け

VS 和歌山工業専門高等学校 セットカウント2-0 勝利

決勝トーナメント一回戦

VS 和歌山北高等学校 セットカウント0-2 負け

6月3日～5日にかけて、平成29年度高校総体バレーボール大会兼全国総合体育大会兼予選大会が、田辺工業高校体育館で行われた。

**現**役選手としては最後の大会となる三年生も多い。彼らはこれまで公式戦での勝利を経験していない。抽選の組み合わせは悪くない。

**し**かし一回戦。サーブで崩され、これまで練習してきたセンターからの速攻がなかなか機能しない。なんとか1セットを取り返したが、3セット目は体力・集中力ともに切れてしまっていた。結果は1-2で負け。相手の近大和歌山付属高等学校は、昨年の総体でも敗北した相手だった。「リベンジしたかった。」後がなくなった。

**2**戦目の和歌山工業専門学校戦ではセッターを三年生のキャプテンに変えて挑んだ。簡単なミスが多く、決して満足のいく試合内容ではなかったが、初めて公式戦で勝つことができた。「勝てたことが良かった」

**初**めての二日目。決勝トーナメント進出である。トーナメント一回戦の相手は、何度も大会上位の結果を残している和歌山北高校だった。勝つのはなかなか難しい相手だ。しかし、これまでの練習で得たすべてをぶつけるしかない。

**1**セット目。サーブで崩され、あっという間に取られてしまった。しかし、2セット目は違った。サーブカットが安定し、これまでチームの得点源となっていた速攻が決まり始める。この総体前に形になったサイドスパイカーの攻撃が相手ブロックをはじく。ピンチサーバーとして起用された一年生が、サービスエースを獲得した。得点も何度かリードする場面があった。が、残念ながら中盤で力尽きた。持てる技術と力はすべて出したが、だからこそ、強豪校と自分達との積み上げたものの違いを実感した試合だった。

**レ**ギュラーが確約されないほど部員も増えた。それでも、三年生は全員最後の試合に出場し、それぞれが見せ場を作り活躍した。

「二日目に残れてよかった」

「最後の総体で勝つことができてよかった。三年生五人で最後までバレーができ、最高の思い出になりました」

「二日間にわたり、たくさんの人の応援があった。『お疲れさま、ありがとう』と言われて嬉しかった」

最後の感想は、二年半に渡り選手を支え続けたマネージャーのものだ。

**現**在、三年生は練習から去り、新しいチーム作りが始まった。総体で得た経験を生かして、よい結果を残せるよう頑張りたい。